

ジャンボ!とは、スワヒリ語で「こんにちは」の意味。転じて、この「出会い」を楽しむ関係=ネットワークづくりのココロイキとして、名づけました。



発行：もっともっと環境塾 2000
編集：ジャンボ環境塾
住所：〒460-0008 名古屋市中区栄 1-23-13 伏見ライフプラザ 12F
なごやボランティア・NPO センター 気付 メールボックス NO.4
URL:<http://www.geocities.jp/mottomottokan2000/>
E-Mail: motto2_2000@hotmail.com
メーリングリスト: motto-2@yahoogroups.jp

新年 あけまして おめでとう ございます

2007年の幕開けです。新しい年を迎え、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

年や季節の移り変わり・節目は、気持ちを新たにしてくれるものです。嫌なこと、辛いこと、悪いこと等が数多くあったとしても、次は違うだろうという夢を持たせてくれます。気持ちがリセットされ、リフレッシュされます。新しい目標に向かって頑張ろうとする気にさせてくれます。そんなことを一番感じられるのが新年なんですね。

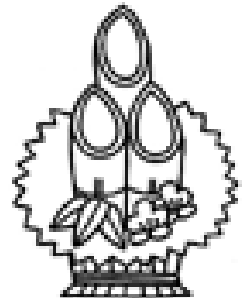
2007年。「もっと2」にとってどんな年になるでしょうか。猪突猛進。心をひきしめて、充実させたいと思っています。そして、さらに躍進の年にしたいと思います。

また、本年がみなさまにとって素晴らしい年となりますように、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

活動実績 2006年9月～

- 2006/12/16(土)・・・なごや環境塾修了生検討会議
- 2006/12/10(日)・・・12月 定例会
- 2006/12/4(月)・・・「カンちゃんのダメダメ日記」 中川区正色小
- 2006/11/29(水)・・・「カンちゃんのダメダメ日記」 中村区ほのか小
- 2006/11/11(土)・・・なごや環境塾2006 第6回講座 講師参加
- 2006/11/4(土)・・・なごやエコキッズ環境サポーター交流会
- 2006/10/28(土)・・・10月 定例会
- 2006/9/2(日)・・・なごや環境塾修了生の集まり
9月 定例会

謹賀新年



「カンちゃんダメダメ日記」名古屋市立正色小学校 12月4日(月)

参加者4名+見学者1名

正色小学校への「カンちゃん」実施は、2004年大杉小学校に訪問した際の教頭先生がご栄転。正色小学校で、ホームページをみてオファーをいただきました。

今回、実施対象が1～6年生までの全校児童約180名ということでしたので、低学年と高学年に分け、新たなアレンジを加えて行いました。また、環境塾7期生の方にも見学していただきました。これらは、「カンちゃん」プログラムの系統化とまとめをするためであり、今後の方向を模索する一段階と考えました。

「ものをたいせつに」の部分で、「きちんとぶんべつ」を関連させ、リサイクル・リユース・リデュースにつなげました。また、「50年前の生活と今の生活を比較してみたらどうか」という話をしました。50年前は、「ものを最後まで使い切り、ものの一生を長くした」そうです。

* 正色小学校 HP 行事のページにも記録があります。 <http://www.syoshiki-e.nagoya-c.ed.jp/18nendo/kankyou18-12-4.htm>



着物を前に50年前の生活の話

「もっともっと環境塾2000」のみなさま、こんにちは(ジャンボ!?)

環境都市推進部主幹 T.M

2006年の4月から、エコパルなごやの担当主幹(組織改正により館長ではなくなりました)になりました、市環境局環境都市推進部主幹(環境教育の総合的推進)T.Mです。このように挨拶する機会を頂き、ありがとうございます。長々と書くと、きっと読んで貰えないでしょうから簡潔な文章で寄稿しますが、一言だけ、「皆様の日頃のご活躍やご指導には、本当にありがたく感じています」、ということを最初に述べさせていただきます。

まずは自己紹介します。1985年に南区役所に採用された私は、1989年に環境事業局に転勤し、ごみの仕事に従事するようになりました。93年のごみ処理条例の全面改正や98年の藤前干潟の埋立事業などを担当し、この頃、もっと2応援団のOさんやSさんに、しっかりしごかれました。01年からの4年間は他局にいましたが、05年の5月に環境都市推進課に異動し、現在に至るまで13年余り環境行政に携わってきました。

公害からごみへ、そして地球環境問題へと環境行政が変化していく時代を経験し、そして今は、これからの環境行政に欠かせない「協働」の最前線の職場に就かせていただいています。特に、エコパル担当になった4月からは、本当に多くの方々と接するようになりました。周囲にはご迷惑ばかりかけているとは思いますが、私自身は、とても勉強になる日々を過ごすことができ、大変ありがたく感じています。

ところで、「なごや環境塾修了生の会」に関しましては、いろいろとご迷惑をおかけしています。それでもなお、皆様方には少なからずご指導をいただいています。ありがとうございます。8月、9月、12月とすべての修了生に呼びかけて会合を持ちましたが、私の段取りの下手さも重なって、なかなか進まないのが現状です。しかしながら、12月の会合では、少し前進したかなあと感じているところです。

そもそも、なぜ、修了生全体の会を?に答えようとするかと、とてもスペースが足りませんし、一言で表現することも難しいことです。ただ、今そしてこれからの環境行政は、確実に「協働」の仕組みにより進めていく時代になってきた、ということだけは言えます。私が環境行政に携わりだした頃は、行政だけでほとんどの仕組みをつくり、市民にそれをお願いする、という流れの仕事がほとんどでした。しかし、今の時代、市民参加が不可欠です。それも、行政対市民による構図で声を拾うのではなく、行政も市民も企業もみんなが一つのテーブルで、お互いの立場を踏まえて議論し、正しい答えを考えていく「真の協働」の仕組みが必要と考えます。

私は、なごや環境塾の修了生の皆様で、「協働」の仕組みをつくる必要と考えています。それが構築されれば、これからの「なごや環境塾」に活かすこともでき、今後の環境保全活動人材育成も更に良い事業になっていくものだと期待しているのです。

もっと2の皆様方は、ある面で「協働」を実践しているグループと思っています。これからもいろいろと指導していただき、もちろん、私たち行政も負けないように学んでいき、より良い「協働」の仕組みをつくり、環境行政に活かしていきたいと考えています。これからも、引き続き、よろしく願います。



「エコパルなごや」にて

なごや環境塾修了生の会 検討会議

2006.12.16(土)

前号でもお知らせした2006年8月の修了生の集まり、9月2日にも再度開催されました。その後、修了生対象のアンケートが実施され、その結果と行政内部によるデザイン会議を経て、今回の検討会議が開催されました。

この検討会議でエコパルから「なごや環境塾」の位置づけがより鮮明に打ち出され、修了生の会(仮称)とエコパルの関係は、「協働」の場であると明示されました。その「協働」の場で「行動する市民」「協働する市民」を増やす、という人材育成という目的がはっきりしました。その理念は、「持続可能な社会を目指す。」とのことです。また、「エコ・SEED」の位置づけが期を超えた「有志の会」であると再確認されました。

このエコパル・行政の意思表示をもとに修了生17名とT先生・(N)中部りが参加して前向きな意見交換をしました。その結果は議事録として送付(12/28付・参加意思表示者)され、次回 1/14(日) 再度検討会議が開催されます。(参照 P4 お知らせ掲示板)



月/日	1期生参加者(名)
8/12	6
9/2	5
12/16	4

なごや環境塾2006に講師として参加

K.A

去る、11月11日(土)なごや環境塾2006、第6日目のプログラムに講師として参加しました。

事前に、事務局よりいただいたテーマは、私自身の「エコアクション遍歴」。「どんなことをしてきたか」だけでなく、「どうしてそうしようと思ったのか」という気持ち・考え方の部分を伝えてほしいということでした。

もちろん、今現在の「もっと2」の活動に結びついていくので、カンちゃんの紹介につなげました。

演題は、「"気づき"から始まる、私らしい伝え方」。

伝えたいことをどう伝えるか、いろいろ考えましたが、やはり、一番は私らしい気づきを今までの経験からお話しました。

今回の環境塾の目的は、環境学習プログラムを作り、小学校などで実施するという事を目標にしているの、実際に小学校などへ出前授業に行っている、私たち1期生の活動は、よきお手本になるのではないかと考えました。カンちゃんのプログラムの概要に加え、プログラムのねらいや落としどころを話し、どんな風にカンちゃんが成長してきたかもお話しました。そこには実施する側(学校現場)の想いと私たち市民の想いが重なり合ってきた過程があることも伝えました。実際に、講義の後の質問は具体的なものが多く、受講生の皆さんの関心の高さ、心意気を感じました。

今回の環境塾の大きな特徴は、関心のあるテーマ別に分かれてグループに分かれて、プログラムを作るのではなく、「一人ひとつ」のプログラムを考えること。一人欠け、二人欠けていく事が予想されるグループではなく、個人個人でも活動できるようにとの事です。たしかに、グループで活動していく上では、人材の確保が課題にもなりますが、いろいろな人の意見を聞き、作り上げることも大事だし、楽しさでもあると思うので、結果がどうなるか楽しみです。

7期生の今後を楽しみにしたいと思います。(もう7期……10年は目の前ですね。)



おめでとうございます もっと2応援団 Y.1さん

年末に新聞を眺めていたら、なんとビッグなニュースが目飛び込んできました。写真を見れば、懐かしいお顔！「中日歌壇」短歌の昨年の最優秀作者の発表記事でした。年の初め、おめでたいことなので、このジャンボ通信でも紹介させていただきます。

短歌を始めたのは、環境塾と同じ2000年だそうです。

ジャンボの記録を紐とけば、ありました創刊号！
2000年10月2日に「ランチの会」と称し、東区白壁界隈をタウンウォッチングし、撞木館でランチを楽しんだ後の短歌がありました。

「吉田屋」の親父は酒をひとくさり
商いなべて妻にまかせて

この庭にかつては私家の歴史あり
忘れなと咲く曼珠沙華咲く

男ひとり読書に耽る幸もあり
「自由空間」静やかな午後

(by 朧月夜)

(2000.10.14 ジャンボ Vol.1より)

本紙サンデー版中日歌壇「中日俳壇」最優秀に県内から2人
中日サンデー版の「中日歌壇」「中日俳壇」の今年最優秀作者(短歌二
同、俳句二首)が発表された。県内からは、名古屋守山区守山の伊藤
忠美さん(57)の短歌で、愛西市津町の鈴木けいさん(59)の俳句が選
ばれた。詩の再を紹介する。

伊藤山美子さん(56)「モモ帳」に
伊藤山美子さん(56)「モモ帳」に
伊藤山美子さん(56)「モモ帳」に
伊藤山美子さん(56)「モモ帳」に

中日新聞 朝刊 2006年12月25日

EXPO エコマネー って？

「EXPO エコマネー」とは、レジ袋削減や環境学習などのエコ活動がポイントとなり、エコ商品との交換や植樹への寄付ができるものです。誰もがちょっと気を付けるだけでできる環境に優しい配慮で地球のためになるのです。2005年3月25日から9月25日まで、愛知県で開催された2005年日本国際博覧会(愛・地球博)で協会事業のひとつとして実施された、人と地球にやさしい環境通貨の実験事業が始まりました。

地球温暖化防止や循環型社会の実現を目的に、市民・企業・行政それぞれの「環境に配慮した行動」によってCO2排出を削減し、ポイント寄付等による植樹でCO2を固定化するこの協会事業には、会期中、約60万人の来場者の参加を得ました。

博覧会協会とNPO法人エコデザイン市民社会フォーラムは、この成果を守り育てていくために、会期終了後も約1年間、この実験事業を社会に広める形で継続しました。

その後、2006年12月からは、これまで協会からEXPOエコマネー事業の運営を任されてきたNPO法人エコデザイン市民社会フォーラムが、中部経済産業局、愛知県、名古屋市等の協力を得て、新たな事業として実施しています。

EXPOエコマネーセンターは、現在、名古屋市金山地区アスナル金山内にあります。エコ活動をポイントに加算し、エコ商品への交換や植樹への寄付ができます。ポイントがたまる環境配慮行動には、「レジ袋削減」「エコ宣言をする」「公共交通機関の利用」「環境学習・啓発プログラムへの参加」があります。

例えば、名古屋市のエコくーびょんやスーパーなどサポーター店舗でのレジ袋削減のスタンプやスタンプシール1つが1ポイントです。なごや環境大学の講座受講やエコマネーセンターへ行っても1ポイントです。名古屋市エコライフチャレンジ宣言やCO2ダイエット宣言などをしてよいのです。ユリカなどの使用済みカードをエコマネーセンターへ持参するとポイントがたまります。

たまったEXPOエコマネーはエコ商品と交換できます。また、何ポイントからでも植樹に寄付ができます。寄付をすると、緑の葉の形をした記念シールをEXPOエコマネーセンターに掲示中の「どんぐりーずの樹」ボードに貼ります。50ポイント以上寄付すると植樹証と「未来の子どもピンバッジ(提供:名古屋市)」がもらえます。

今後も「持続可能な社会」の実現を目指し、様々なシステムづくりが行われるようです。

エコ活動に頑張った人にちょっとしたご褒美があり、楽しみながらできるEXPOエコマネーなのです。さあ、始めてみませんか。



エコマネーセンター



ピンバッジ(提供 M.A氏)

お知らせ掲示板

・なごや環境塾修生の会 検討会議 1月14日(日) 伏見ライフプラザ 12階 第1研修室 10:00~12:00

・1月定例会 1月20日(土) なごやボランティア・NPOセンター フリースペース 13:30~15:30

*詳細は、Aまでお願いします。

編集後記

ジャンボ通信 Vol.12 いかがでしたか。年末・年始の慌ただしさの中、いつものように短期決戦の編集作業となってしまいました。これは、いつもの反省。年が変わり、気持ちも変わっているはずなのに・・・

「修了生の会」・「協働」・・・。「もっと2」にとって、今後の活動を考えさせるものです。第1期修了生の一人として、どのように関わるのか。

それにしても「もっと2」の設立が2000年11月25日。それ以前の10月にジャンボが創刊されていました。当時の熱い想いを感じるとともに「もっと2」の歴史を身に刻んできた一人であった自分を知って、うーん、また歳が増えた。(参考:ジャンボ通信は「もっと2」リフレッシュ後の2003年7月20日創刊。)

(BY ドクダー)

